



東大寺 212 世別當 筒井寛秀 筆

No.49

2021.6.1

【発行】

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会

<https://www.narakenshiren.gr.jp/>

【発行責任者】 前田 妙子



【メールアドレス】

[honbu@narakenshiren.gr.jp](mailto:honbu@narakenshiren.gr.jp)

## 新年度を迎えて

会長 前田 妙子

新緑の美しい季節となりました。新年度を迎え、平素よりご支援、ご協力いただいております皆さま方にあらためまして心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大が長期化する中、令和3年度の総会は、昨年に引き続き中止とし、理事による書面決議とさせていただきます。コロナ禍のもと、会の活動は今まで通りにはいかないことばかりですが、会員同士の心の交流と情報の共有ができるよう見直しと工夫をしながら進めてまいりたいと思います。

その取り組みの1つとして、前号より広報誌『道』に「和気あいあい」という新コーナーをつくりました。子どもたちの生活の様子や親の思い、事業所や施設の紹介などを載せていきますので、子どもたちのことを知っていただく機会や会員同士の交流の場となればと思います。

また、当会のホームページには、随時新しい情報を載せて充実を図っていますので、有効的に活用していただきたいと思います。その他、感染状況をみながら、いつでも変更や中止が可能な少人数での活動を企画しています。

研修部会では、1月に開設された「奈良県重症心身障害児者支援センター」や、4月に施行された「奈良県重症心身障害児等の地域生活の支援に関する条例」に関して勉強会を計画しています。いずれの活動も、感染防止に努めながら進めてまいりますのでご協力ご参加をお願いいたします。

そして今年度は、第16回チャリティー墨書展開催の年です。障害児者のためにとご揮毫いただく東大寺様をはじめ南都諸大寺、三門跡ご寺院様のご高僧の方々に感謝し、感染予防に努めて安心して開催できるような工夫をしながら準備を進めてまいりたいと思います。

私たちの子どもたちの生活や命を守るためには、ソーシャルディスタンスを保ちながら介護も看護もできません。そのような状況で感染のリスクを負いながらもお世話してくださっている支援者の皆さま方へも心より感謝申し上げます。

今まで当たり前であったことができなくなったコロナ禍だからこそ「人と人とのつながりの大切さ」「お互いを思いやる仲間の大切さ」に気づかされます。皆さまと直接お会いできる機会は少ないですが、心の絆を大切に、お互い健やかにすごしてまいりましょう。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。




 養護学校より


子どもたちの笑顔のために

奈良県立明日香養護学校

校長 福井 康博

新緑が鮮やかに映え、日増しに初夏の訪れを感じる季節になってまいりました。

貴会におかれましては、日頃より本校の教育に対しまして深いご理解と温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

明日香養護学校の校長に就任して二年目となります。着任してまず、子どもたちの笑顔に感動しました。そして、この子どもたちの教育に携わることの喜びを感じるとともに、その責任の重大さを実感いたしました。

ご承知のとおり、本校は昭和41年に県内初めての養護学校、「奈良県立養護学校」として創設されました。以来、半世紀以上にわたって蓄積してきた様々な教育活動について、必要に応じて見直しや改善を行い、より専門性の高い肢体不自由教育・病弱教育を目指し、日々教育活動に取り組んでいきたいと考えております。

本校の児童生徒が、校訓である「明るく 強く 美しく」生きるために、着実に成長してくれるよう、一人一人の健康状態や実態、保護者の皆様の思いやニーズを把握し、ともに連携しながら、児童生徒の可能性を最大限に伸ばすことができる教育活動を行い、皆様の期待に応えることが本校教育の重要な課題のひとつであると考えます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症のため、臨時休業や在宅学習、各行事の中止や変更などを余儀なくされました。しばらく、児童生徒の登校しない期間がありましたが、登校再開となり子どもたちの笑顔を目の当たりにしたとき、これこそが学校であると実感いたしました。困難を乗り越え、学校生活を懸命に送る子どもたちの姿から、私たち教職員も多くのことを学んでいます。

今年度も様々な課題に直面すると思いますが、常に子どもたちを中心に据えて、何ができるのか、何をすべきであるのかを見極めて教育活動をすすめてまいりたいと思います。

子どもたちの笑顔を守るため、教職員一同、日々精進したいと考えております。

県肢体不自由児者父母の会連合会の皆様におかれまし

ては、引き続き本校教育に対する一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「一年間の活動を振り返って」

明日香養護学校

前PTA会長 木村 悦子

明日香養護学校令和2年度PTA会長を拝命され、さて活動の準備を始めようとしていた矢先の昨年2月末、全国一斉休校となりました。当初は新年度からは普通に登校再開出来るものと思っていましたが、まさかこのような一年になるとは思いもよりませんでした。

学校では予定していた行事やPTA活動のほとんどが中止となり、子どもたちも残念な思いをしたと思います。そんな中でも学校では感染予防対策をしながら徐々に日常の授業が出来るようになり、子どもたちも元気に過ごせているのは大変嬉しい事です。

学校でのPTA会長としては最低限の活動しかする機会がありませんでしたが、県肢連の会合に参加し、外部の情報を見聞きする事が出来たのは大変ためになる貴重な経験でした。

まだまだこのコロナ禍が収束する兆しは見えませんが、引き続き感染予防に気を付けながら学校生活、日常生活を過ごしていきたいと思います。

一年間、ありがとうございました。

奈良県立奈良養護学校

前PTA会長 左野 佐保

令和2年度のPTA活動は、新型コロナウイルスの流行により、話し合いの結果、クラス役員は休止し、前年度の本部役員のみで活動することを決めました。本部役員6名で、状況に合わせてできる事をピックアップし、活動をしていこうという、異例の形でのスタートでした。

クラス役員の休止に伴い、保体部・進対部・広報部、各部の活動を休止したため、令和2年度の広報紙「ならNOW」の発行も停止しました。状況が落ち着けば、少しでも出来る活動からしていきたいと思っておりましたが、校内で行うボランティアカット・親睦会・食育研修会・「子供たちの将来についてお話をする会」、そしてPTAバザー用の手作品

製作講習会、施設見学も全て中止することとなってしまいました。

校外での啓発活動におきましては、人が多く集まる場所であるということで、いつもご協力頂いているイオンモール大和郡山店と、ザ・ビッグエクストラ大安寺店でのPTAバザーは中止する事を決めました。「幸せの黄色いレシートキャンペーン」は、お世話になっているイオン高の原店から店頭活動は、中止しますとのお知らせもあり、こちらも活動は、行いませんでした。

令和3年度も、今まで通りには活動をできないことが予想されましたので、3学期に、次年度のPTA活動について、アンケート調査を行いました。アンケート結果を参考に、希望の多かった項目など、これからの活動を検討していきたいと思えます。

近年、時代に沿ったPTA活動のあり方が問われる場面に直面することが多くあります。コロナ禍の中、今までに経験したことのない事態に活動を自粛せざるを得ない状況にあります。今できることを探りつつ、これからのPTA活動の形について考えていく良い機会と捉え、新しいPTA活動の形になる土台を、少しずつ作っていきたくと考えています。

最後に、これからも子どもたちがより良い学校生活、充実した地域社会での生活が送れますように、今後ともご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*

## 活動報告

### 全肢連相談事業

期間:2020年9月15日～12月17日

田口 美智子

会員の日頃の困りごとに対して、コロナ禍でしたので、理事会開催後の聞き取り、郵送、メール、FAX等で役員が相談を受けました。

総件数 129件あり、中でも親子共に高齢化することによる将来への不安の声が多く上がりました。祖父母の介護が加わる、親が病気になる、片親が亡くなる等、さまざまな理

由で子供の介護が難しくなっているが、グループホーム、施設への入所を希望してもすぐに入所できない、家族と支援してくれる事業所で支えあうが日々ぎりぎりの状態などの事例もありました。また、入所でできていても日中の活動が充実していないことや移動支援を使うことができないことやグループホーム入所者では障害者年金で賄う生活への不安、在宅で過す人では、生活介護、ホームヘルパーや訪問看護、移動支援、ショートステイを利用する中での事業所とのトラブルや障害者理解の不足での不快な思いをしたなどの声がありました。

また、医療的ケアの必要な人の日中活動の場や人材の不足についても下記のような困りごとが聞こえてきました。

- ・ 医療的ケアが必要になったが、医療型事業所の定員がいっぱいで通所できず在宅となった。
- ・ 近くに通所施設なく、また看護師同乗での送迎が手配できない時は親が送迎するしかない。
- ・ 気管切開に対応できるヘルパー、看護師の人材が不足している。
- ・ 筋ジスで医療的ケアが必要な人が利用できる事業所、短期入所先がない。
- ・ 医療的ケアを受けながら自立して暮らしたいが、支援のできる事業所が少ない。
- ・ 医療的ケアの必要な重症心身障害児者の日中活動の場が不足している。
- ・ 職員の知識、意欲向上となる研修の機会を国・県の規模でバックアップしてほしい。

他にも、個々の障害を十分に理解してもらえないかかりつけ医が必要、リハビリについても年齢を重ねるにつれて身体の機能を維持することが難しくなる肢体不自由児者にとって継続することが重要だが、成人するとその機会が少なくなっているなどの悩みもあります。

加えて、災害時の対応についての相談も多く、車いすでの避難方法、避難所又は福祉避難所での生活に不安が大きく、障害者が取り残されることないように災害時の個別避難支援計画を在宅時だけでなく通所先、入所先で被災した場合の対策も含めて早急に立ててもらいたいなどの要望もありました。

就労についても一般就労を希望するが、車いすの人が通える所がなかったり、地域生活支援拠点等については、まだ整備されていないところがあつたり、拠点となる施設に対して、重度の肢体不自由児者への対応もできるようにして

ほしいなど、現状への不安を抱く方も多くいらっしゃいました。

そしてコロナ禍では、入所する子供との面会ができないことや、いつになれば収束するのか、収束後は完全に元の生活に戻るのかなど解決の目途が立たない状態が続いています。

これら以外にも、行政への要望や、就学時の相談、包括的にサポートできる相談支援員の育成の希望等もあり、父母の会連合会として会員の方に寄り添って活動する必要性を感じています。本年度も当該事業を継続して行い、できる範囲での助言をしながら行政への要望書等へ反映させていきたいと思っています。



### 全肢連オンラインアンケート

「重度障害者対応共同生活援助の  
支援体制の在り方調査」の報告会

日 時: 2021年2月20日(金) 13:00-16:00  
場 所: リモート配信 (Zoom)  
講 師: 伊達コスモス 21 理事長 大垣勲男氏  
参 加 者: 70名程度 (奈良県肢連より3名)

大和高田市 日下 敬子

昨年夏に「重度障害者対応共同生活援助支援体制の在り方」検討事業のアンケート調査に協力し、オンラインによる最終報告会並びに「重度障害者・保護者が安心して生活できる場づくり」についての講演会に参加しました。

講演会では、北海道でグループホーム(以下 GH)を立ち上げた方のお話を伺ったのですが、制度が複雑だけでなく脆弱ゆえに、必要な支援を受けて生活することは難しいということが少し分かりました。GHは設立資金だけでなく、事業継続のための補助金も不足しており、入居者の個々のQOLを下げることのない細やかな環境を整えるためには、色々な福祉サービスを組み合わせること、それを引き受けてくれる事業所の確保が必要であるとわかりまし

た。そしてそうした問題は、今の行政の自助・共助・公助の順番では、解決が難しいと感じました。

また GHに入居せずに、在宅で24時間の支援を受けながら子どもを見ていきたいと考えた場合に、在宅医療の面でも支援は十分ではないと感じています。子どもの成長に合わせた診療科の移行は難しく、医療型ショートステイを希望しても、受け入れ先の看護・療育・介護と福祉サービス等の体制が整っていなければ、利用者の負担も大きいのが現状です。

今後、地域でよりよく生きるためには、まだまだ解決しなければならない課題が多く、利用者側のことだけでなく支援者の側へも長く続けられる経済的、時間的支援が必要ではないかと思いました。

※アンケート結果は全肢連ホームページでご覧いただけます。

<https://www.zenshiren.or.jp/publics/index/186/#page-content>



### パソコン講習会

日 時: 2021年3月2日(火) 10:30-12:30  
場 所: 奈良県社会福祉総合センター内事務所  
おおよび各参加者宅  
講 師: web creator 掛水敏充氏  
参 加 者: 6名

生駒市 漸井 みゆき

今年のパソコン講習会はコロナ禍の中集まることができず、オンラインで受けることになりました。例年は講師の先生が一人ひとりの疑問に答えたり、進行状況に応じて助言してくださっていましたので、今回はどのように進められるのか、とても楽しみにしていました。

「リモート会議の参加方法について」はパソコン画面の記号や用語も含めて丁寧に説明されました。知らなかったことが多く勉強になりました。「グーグルドライブの使い方」で



は様々な機能があることを知りました。機会を見つけて是非活用したいと思いません。

パソコンは必要に迫られないと学べる機会はなかなかありませんが、新しい知識を得てできることが増えるのはとても楽しいことです。自宅に居ながら教えていただけて有意義な時間を持つことができ、ありがとうございました。

桜井市 坪田 充代

今回の講習は、コロナの感染リスクを考え、集まることは避けて、リモートで行われました。Web会議システム参加方法や開催案内、Googleドライブを使っのての情報共有・確認方法など、教えていただきました。今年度は役員会も何度かリモートで行われ参加していたのですが、良く分からず使いこなせていなかった部分もとても分かりやすく教えていただくことが出来ました。

リモート会議では、アクシデントが起こったり、実際に会って話す方が伝わりやすいと感じたりすることもあるのですが、今までは集まらなと出来なかつたことが、自宅にいなからできるという便利さもあり、コロナ禍でさまざまなことのオンライン化が進んでいるように、父母の会でもこれからの方法のひとつとして取り入れていくのも良いのではないかと感じています。そのような中今回の講習は、リモート会議に欠かせない内容でとても勉強になりました。今後もこのような機会があれば是非参加させて頂きたいです。ありがとうございました。

事務局 阿部 宜子

昨年2月頃から、新型コロナウイルス感染防止のために、これまで通りの活動が全くななくなつてしまい、何か策を講じなければいけないと思いなから、試行錯誤の中でパソコンと向かい合つて1年を過ごしていましたので、この講習会を心待ちにしていました。

優しく丁寧に解説してくださる講師のご指導で、オンライン会議の初歩的な操作方法から会議を中継する方法など今後の発展的な使い方までを興味深く学ぶことができました。

また、資料の共有方法としてクラウドにデータを置いておくことや、それらを遠隔から加工したりコメントを入れたりす

ることができるわかつ、会議が開催できない不便さを解消するために使いこなせるようにしたいと思いなから。

そして、今の懸案事項であるコロナ禍での理事や会員との交流方法として、ホームページを活用していくヒントも教えていただき、悩んでばかりの会の運営方法の新しい方向性を感じました。

加えて日頃の素朴な疑問も解決していただき、「不思議な箱」だったパソコンが「使いやすい道具」に少し近づいてきた気がします。

映画観賞会



日時: 2021年3月5日(金) 13:00-15:00

場所: 奈良県社会福祉総合センター

ボランティアルーム

上映作品: 障害者ドキュメンタリー「えんとこ」

(いせフィルム)

参加者: 12名



奈良養護学校高等部3年 河野知洋さん書

# 和 気 あい あい

会員の通う事業所や、会員の生活の様子を紹介するコーナーです。



## わかくさもえぎ

施設長 尾崎 辰彰

わたしたち「わかくさもえぎ」は大和郡山市の事業所に移転してきて、もうすぐ7年目を迎えようとしています。郡山の事業以外に奈良ファミリー・大和高田トナリエにて印紙、証紙の販売もいたしております。おとしに節目となる5周年記念の式典を福祉センターで開催し、皆様にお祝いいただき、大変な喜びとともに、今後より一層利用者、ご家族、地域に寄り添った支援が提供できる事業所でありたいと思っております。

最近ではどうしてもコロナ関連の話題になってしまいます。利用者、ご家族、職員ともに不安な日々を過ごしながら、感染症には負けないように気をつけながら生活を送っています。しかしながら、大なり小なり誰にでも起こりえるリスクなのですが、ある利用者の方で居宅介護事業所のヘルパーの方がコロナの陽性反応が出て、その方の支援で接触したことにより濃厚接触者と判断されました。PCRの結果は陰性であったのですが、保健所より2週間の自宅療養を推奨され、そのような状況のため支援に入られているすべての事業所にケアを断られた事例が起きました。その方に対応するためにもえぎの職員を一人を専属で派遣し2週間の在宅生活を乗り切れました。今後もまだまだこの感染症に振り回されてしまうことが予想されます。みんなが笑って過ごせる生活が送れるように、今回の一つの事例をこの広報の一つに取り上げてもらい、一緒に考えていけたらと思います。



NPO 法人わかくさもえぎ 奈良県大和郡山市九条町 295-1 TEL 0743-58-1411



## 71歳の重度障害者の姉に寄り添って

生駒市 梅本 順子

この春、小学一年生になった孫が、1か月ぶりに遊びに来てくれました。2月生まれで、特に小柄ですので心配で、「学校はどう?困ったことはない?」と尋ねてみました。「うーん、月曜日が…。」「月曜?」「月曜、上ぐつをはくのが大変で…。」どうも、月曜の朝はランドセルを背負い、荷物も多いので、げた箱で上ぐつをはくのに困っているらしい。予期せぬ返答に、その情景が思い浮かび、ばあばの目尻は下がり、えびす顔になってしまいました。大人の尺度とは

違うことを実感しました。

私の姉は現在71歳で、約50年間在宅で生活しております。幼い頃は近くに施設などもまだなく、学齢期は「近江学園」と「びわこ学園」に入所させていただきました。施設に送る衣服に、母が「ミチコ」と刺繍していた姿を思い出します。

成人を機に卒園し、自宅に戻りました。一時は私の子どもも含め、八人家族で賑やかに生活しておりました。その後、通所の「かざぐるま」「あけび」、訪問リハビリ・訪問看護・訪問介護の「アイユウケア」など、温かく接してくださる方々に恵まれ、現在まで過ごしてきました。

幸い、てんかんの発作以外には大きな病気もありませんでしたが、約2年前、誤嚥性肺炎になりました。嚥下能力が低下し、唾も喉を通らなくなり、溺れている状態でもがいているとのこと。迷った末、咽頭をとり「永久気管腔造設・分離手術」を受けることにしました。治療について、重大な決断が必要な場面が急に訪れ、様々な医療ケアを選択していかなければならないことに戸惑いましたが、痛みや苦しみを取り除くことを第一に決断しました。

術後は、唯一の「アーン」「ウンウン」などの声も全く出せなくなりました。「みっちゃん、よくがんばったね。」横たわっている姉の頬に一筋涙がつたっていました。物言わぬこんな子にもまだ試練が与えられるのかとうらめしく思いました。言語聴覚士さん、ドクター、看護師さんたちに温かく見守られ、四か月間昼夜付き添っての入院生活でした。術後、ゼリー食が進まず、諦めかけていたとき、一か八かコンビニのお弁当を食べさせてみたところ、ペロツと半分食べ、翌日から急遽さぎみ食に変更してもらったこともありました。ささいなことが功を奏すこともあります。本人の望みは何か。毎日一緒に暮らしながら、周囲の私たちが想像し、最良と思われる選択ができたらと思っています。

ところで、姉の受けた「分離手術」というのは、気管と食道を分ける手術です。首の下に2センチぐらいの大きさの穴(気管孔)を開け、そこから呼吸をします。その穴をふさいでしまうと窒息してしまいます。鼻や口は、胃にだけつながっており、呼吸はしていません。知らないとうっかりふさいでしまうことにもなるので、多くの人にお伝えするようにしています。

そして、天気のいい日はできるだけ車いすで近所を散歩し、まず障害を知っていただく心がけています。家に遊びに来る孫や孫の友達も「みっちゃん、こんにちは!」「みっちゃん、さようなら」と声をかけてくれます。子どもたちは柔軟で、最初は驚きながらも自然と受け入れてくれているようです。小学生ぐらいの時から、障害のある人とも接点を持つようなカリキュラム等あってもいいのではないのでしょうか。こんな不安な時代だからこそ、障害者の懸命に生きている姿が心の指針になるかもしれません。

(合掌)





ともかく赤ちゃんは生死の境目をさまよっていてどうなるかわからないということで、私は通勤の電車の窓から見える病院の、保育器にいる娘に向かって「頑張れよ、生きてくれよ」と念じていた。ちょうどファンであった近鉄バファローズがリーグ優勝争いをしていたので、「近鉄頑張れ優勝したら娘も生きていく。シリーズで日本一になったら娘の障害リスクもほとんど無くなる・・・。」というような勝手な願掛けを心の中でしていた。

頭の出血はその後自然に吸収されたが、残念ながら小頭症は先生の言葉とおりであった。まさか私たちがこのようなことになるとは思ってもなかったのでどうしていいのか全く解らなかった。小頭症という病気がどんなものかも良くわからなかった。頭の中にはかすかに「原爆小頭症」という言葉があっただけであった。

今となっては何であんなことを思ったのだろうと不思議な気がするが、小頭症の直美が成長すればどうなるのかを想像して、朝夕の通勤の雑踏で、頭の小さい人を探していたことを思い出す。(現実はおとんどと同じ症例の方は歩くこともできないのに)

直美は3番目の子供で兄と姉がいる。直美ができてからは全てが直美中心の生活になり、兄姉には何も満足なことをしてやれなかった。しかし二人とも人様に迷惑も掛けず立派に育ってくれた。兄と姉で直美に対する接し方に違いはあるが、二人ともすごくかわいがってくれている。兄は大学4年で就職の内定をもらった。来年春には社会人として巣立っていく。姉は大学入試を向かえ四苦八苦している。

その後の歩んできた道は、病院めぐりと治療法探し。機能訓練に明け暮れる日々。小頭症による脳性マヒで點頭てんかん発作もあり、生きていくには全介助が必要。体は側湾が進み、嚥下障害も出てきていたので経鼻経管栄養(鼻から胃にチューブを常時入れていて栄養剤を注入)で生命維持をしてきた。その間の直美のケア・世話はすべて妻が担ってくれた。私は仕事が忙しかったこともあり、また、それを理由にある意味妻に押し付けて(甘えて)逃げていたのかもしれない。妻には感謝しかない。

去年の冬と春に肺炎でどちらも10日程度の入院をした。それまでも逆流性の誤嚥による肺炎を起こしやすい(胃食道逆流症)と言われていたので、夏休みを利用して胃瘻(胃に穴を開けてチューブを入れる)手術を受けることにしたのが長い闘病生活の始まりだった。

そして17回目の誕生日を目の前に控え、退院できることになり、今は退院前の外泊で久しぶりに家のベッドにいる。



1年2ヶ月ぶりの家での生活。主治医の先生はじめお世話になった先生方、看護師の皆さん方に感謝の気持ちでいっぱいである。看護師さんたちには、直美の看護もさることながら、私たちの心のケアも気遣ってくれたことに感謝している。そして一番苦勞を掛けた妻にありがとうの気持ちでいっぱいである。直美がいつまで元気でいられるかわからないが、悔いの無いようにして行ってやりたい。

2006年10月記す。

## 田倉聖子さん 知事表彰おめでとうございます

安堵町 田倉 聖子

私はこのたび、「奈良県障害者自立更生者知事表彰」をいただくことができました。当日は、あいにくのコロナで受賞者と関係者のみでしたが、初めてのことでまさか自分が頂けるとは思っていなかったもので、緊張しましたが、副知事より賞状と祝辞をいただいたときは嬉しく思いました。県会長の前田さんの推薦のおかげで頂くことができ、感謝しています。

私が20数年、元気に働くことができたのは、通勤を通し、多くの方々の助けのおかげだと思っています。これからも体力が続く限り行きたいと思っています。本当にありがとうございました。



令和2年12月2日、奈良県障害者自立更生者及び更生援護功労者表彰式が、奈良県文化会館で行われました。奈良県肢連からは、田倉聖子(さとこ)さんが表彰されました。田倉聖子さんは昭和53年に生まれ、奈良県立奈良養護学校小学部に入学されましたが、引っ越しを機に小学四年生から地域小学校・中学校を卒業されました。奈良県立田原本農業高校に入学され、卒業後の進路として、短期大学へ進む道もあったのですが、就職に有利な技術を身につけたいという思いから、国立吉備高原職業リハビリテーションセンター(職業訓練校)へ入学されました。1年間の寮生活をおくりながら、簿記、パソコン操作などビジネス情報系の技術を学んでおられました。

卒業後就職活動をしました。車椅子で通える企業が見つからず、大変苦労されたようです。県外へも目を向けて一年間余りの就職活動の末、ビル建て替えに伴い車椅子対応のオフィスになった一般財団法人 カケンテストセンター(大阪事業所)へ入社され今年で、入社22年目を迎えます。通勤は、自宅から最寄り駅のJR大和小泉駅までは、ヘルパーの車での送迎を利用されていますが、そこからはJR線、大阪メトロを乗り継ぎ、駅から約10分の会社まで自力で通勤されています。公共交通機関を利用し二十年以上勤務を継続していることは、同じ障害を持つ人たちの模範となるべき存在です。

田倉さんは以前大和郡山市にお住まいでしたが安堵町に転居されました。安堵町に父母の会がないため、その後も大和郡山市父母の会に所属されています。聖子さんはクリスマス会や親睦会などにお母さんにご参加され、カラオケを楽しむ明るい方です。仕事にやりがいをお求め前向きに取り組んでおられ、自立更生者として奈良県知事表彰されたことは、大変喜ばしいことです。本当におめでとうございます。これからもお仕事頑張ってください。田倉聖子さんから知事表彰を受けて感想をいただきました。



## 訓練会



仔鹿会

仔鹿会会長 山本 真由美

今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点より通常の集合型訓練の月例会および心理療育キャンプの中止を余儀なくされ、奈良心理リハビリテーション研究会のトレーナーと仔鹿会保護者代表との協議の結果、個別動作法訓練とオンラインによる訓練の実施を計画し実行しました。

個別動作法訓練は、学校を卒業している年代のトレーナーを対象に、トレーナーの自宅と福祉事業所のスペースをお借りして感染予防対策を徹底し月に1回のペースで11月より開始いたしました。参加トレーナーは3名で3月からは4名に増え、原則的にトレーナーとトレーナーは1対1での訓練ですが、トレーナー育成の研修を兼ねてSVトレーナーとトレーナーがペアとなり訓練を行いました。トレーナーはいずれも社会人となり身体を動かす機会が減少したことに加え動作法訓練を受けられず身体の硬さや辛さを訴えておりました。筋力の低下で歩行が不安定になっていたトレーナーが個別動作法訓練の回数を重ねるにつれて、安定した立位と歩行が可能になり笑顔も増えました。個別動作法は短時間ではあったがトレーナーがとても集中して取り組むことができました。

オンライン訓練ではテストを試み、まずは小規模ながら1月からスタートしました。

1年近く動作法訓練を受けられない状況が続き、その間トレーナーは各家庭で家族と訓練をしておりました。トレーナーの少し緊張した面持ちで戸惑いながら、画面越しにトレーナーの先生の声が聞こえ顔を見てアドバイスを受けて訓練が始まりました。もちろん対面で実際に身体に触れていただく訓練とは違いますが時間が進むにつれて過去のトレーナーとの訓練を思い出した様に身体の緊張がほぐれリラックスして自分の身体にしっかりと向き合い、あっという間に時間が経ちました。

トレーナーも保護者も今まで当たり前できていた事ができなくなった日常の中でオンラインという形で動作法訓練を受けトレーナーから直接アドバイスを受けられたこの時が、とても貴重で大切な時間であると感じた瞬間でした。2回目となった3月のオンライン訓練では、トレーナーのアドバイスに懸命に耳を傾け動作法を学ぼうとする保護者と、

少し楽になった身体で訓練に取り組むトレーナーの姿が見られました。

今年度、新型コロナウイルスにより通常の活動ができず大きな不安の中で仔鹿会の活動がより良い形で継続できる様にと支えてくださった方々に感謝をし、始動した以上の2つの訓練形態の改善および確立を目指し、対面での訓練が可能になった際にも並行して取り組める活動として進めてまいりたいと思います。

陽だまり笑顔の会

陽だまり笑顔の会会長 世良 桂子

令和2年度は、新型コロナ感染拡大防止のために奈良市総合福祉センターでの陽だまり笑顔の会の親子学習会開催は一度もできませんでした。

そんな条件下でしたが、日和会場では8回、どんぐりの家会場では3回の親子学習会が開催できたことは幸いです。

令和3年1月23日、24日に予定していた集中学習会は、動画配信セミナーの受講による学習に替わりました。

これは、集中学習会の講師としてご指導いただくことになっていた丹羽陽一先生が代表になっている名古屋のNPO法人ひろがりが作成した動画をネット配信する三シリーズのセミナーです（「食べる力を育てるために」・「重症児の食事づくり」「ふれあい体操」各5回構成で有料配信、3月20日から順次配信開始）されます。この動画配信によって、会場に足を運ばない人も学ぶ機会がもてるようになったことは有難いことです。

「ふれあい体操」のビデオ放送の中で、愛情をもって子どもの体に触れることの大切さをY(優しく)T(丁寧に)T(大切に)と説明しておられます。実際これまで参加してきた親子学習会でも、親が声をかけて優しく触れると子どもの体の様子や心の動きがよく分かり、子どもは親の手の温もりを感じて体と心の緊張が緩み癒されていくことを、繰り返し経験してきました。

この1年、コロナ禍で学習会の皆さんと直にお会いできなくなりました。改めて人と人が実際に顔を突き合わせて語り合い体と心が触れ合うことの大切さを痛感しています。

令和3年度は、新型コロナ感染拡大の状況を考慮しながらも、計画としては親子集中学習会を奈良市総合福祉センター会場で11月末頃に、日和会場で1月末頃に開催したいと考えています。みんなで集まって学びあえる日がくることを願っています。



～湯井さんの福祉防災アドバイス①～



## みんなで助かるために「水害から安全に暮らす」

(一社)福祉防災コミュニティ協会の湯井(ぬくい)です。今回から、障がい児者の親だからできる福祉防災をテーマに、一緒に考えていきたいと思えます。

出水期に入りました。「水害から安全に暮らす」ために、まずは市町村発行のハザードマップをご覧ください。通学路、通勤路のハザードマップもお忘れなく。自宅が30cm以下の浸水予想、或いは高層マンションならば停電対策の物資を備えて在宅キャンプ。平屋(1階)で50cm以上の浸水想定、2階建てでも3m以上の浸水想定の場合は避難場所の確認をし、レベル3「高齢者等避難」で避難を開始します。マスク、消毒液、美味しいものを持って、ホテルや友人、実家も避難場所です。わが子が健やかに過ごせることを優先に避難先を考えます。空振りは素振りと思って、まずは「雨の日避難訓練」をやってみましょう。

次回は、避難の際に活躍する「SOSカード」について考えます。



※令和2年10月の防災研修で講師をしてくださった湯井さんから、シリーズでアドバイスをいただきます。

## 行事予定

※第55回近畿肢体不自由児者福祉大会【中止】

※第16回南都諸大寺チャリティー墨書展

日にち:9月11日(土)・12日(日)

場所:奈良県文化会館

※第54回全国大会(第58回関東甲信越ブロック東京大会併催)

日にち:9月18日(土)

場所:大田産業プラザ PIO

※オンラインで参加できる可能性あり

※近畿ブロック指導者育成セミナー

日にち:12月4日(土)

場所:神戸市勤労会館

※第8回奈良まほろば館チャリティー書画展

日にち:12月11日(土)・12日(日)

場所:奈良まほろば館(東京都港区新橋1-8-4)

※いずれの予定も直前に開催を見合わせることがございますこと、予めご了承ください。



## \*編集後記\*

このたび、広報誌「道」をリニューアルさせていただきました。縦書きから横書きへ、また誰もが読みやすいユニバーサルデザイン書体に変更しました。いかがでしょうか?

ご寄稿いただきました皆様お礼申し上げます。「和気あいあい」のコーナーでは、福祉事業所様やご家族ご本人から熱いメッセージが届き、また新企画コーナーは、湯井様より福祉防災についてアドバイスをいただきました。連載となりますのでお楽しみに。

第49号についてご感想などございましたら事務局までお寄せください。コロナ禍で不便な今日ですがこの状況が一日も早く解消され平穏な日々に戻りますように。